

結核通信

秩父保健所
TEL 0494-22-3824
FAX 0494-22-2798
(令和3年4月発行)

平素より、保健所の結核対策の推進につきまして、ご協力とご理解を賜りましてありがとうございます。結核は昔の病気と思われがちですが、今でも世界の死亡原因のトップ10に入っている病気です。世界で結核をなくす取り組みが進められていますが、罹患率の減少速度の遅いことが課題と言われております。結核対策にご理解をいただき、結核について正しく知る機会となるよう「結核通信」をご活用ください。

1. 全国・秩父保健所管内の結核患者の状況

国内の結核動向 (R1)

- 新登録結核患者数 14,460人 (前年1130減)
- 罹患率 (人口10万対) 11.5(前年比0.8減)
- 死亡数 2,087人

⇒全国で1日に約40人の新規結核患者が発生し、約6人が結核で命を落としています。

埼玉県の結核動向 (R1)

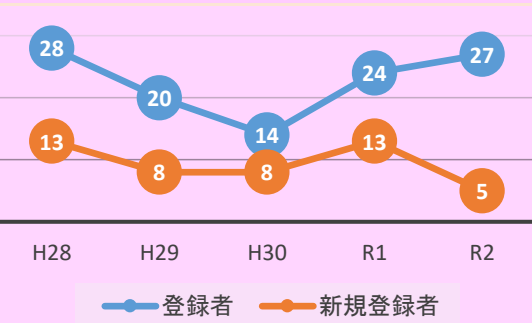
- 新登録結核患者 643人
- 罹患率 (人口10万対) 10.7

秩父保健所の結核動向と年次推移 (R2)

- 新登録結核患者 5人
- 罹患率 (人口10万対) 7.4 (新規登録患者は潜在性結核を除く)

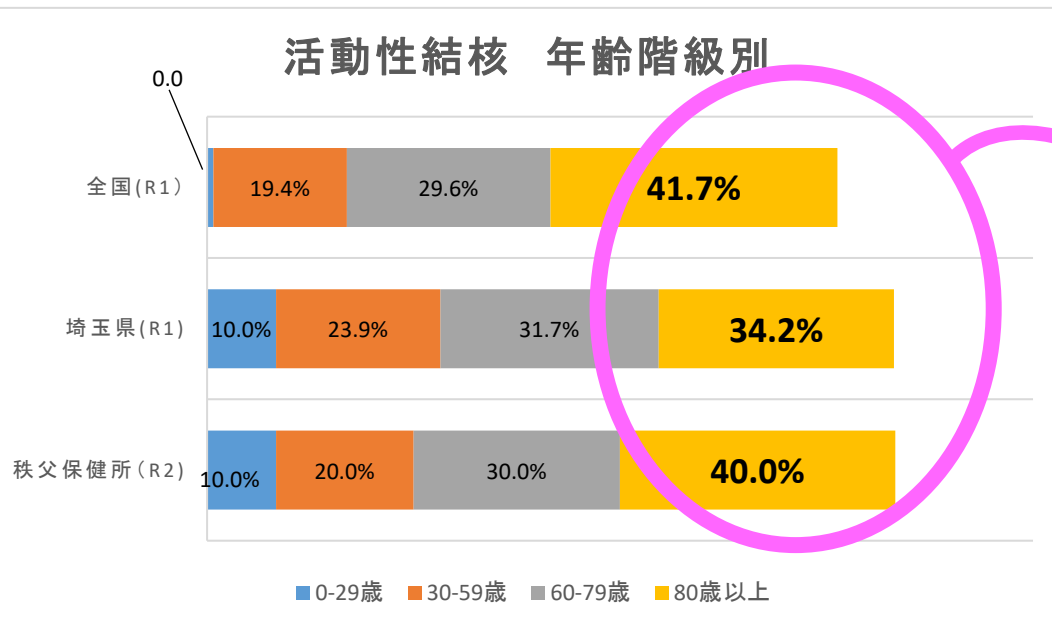
結核はどんな病気？

結核は、結核菌によって主に肺に炎症が起こる病気です。最初は風邪に似た症状で始まります。痰のからむ咳や微熱、身体がだるさが2週間以上続く場合は、早めに医療機関へ受診しましょう。高齢者の場合は、このような症状がでないことがあります。年に一度は健診を受けましょう。



2. 高齢者に多い結核

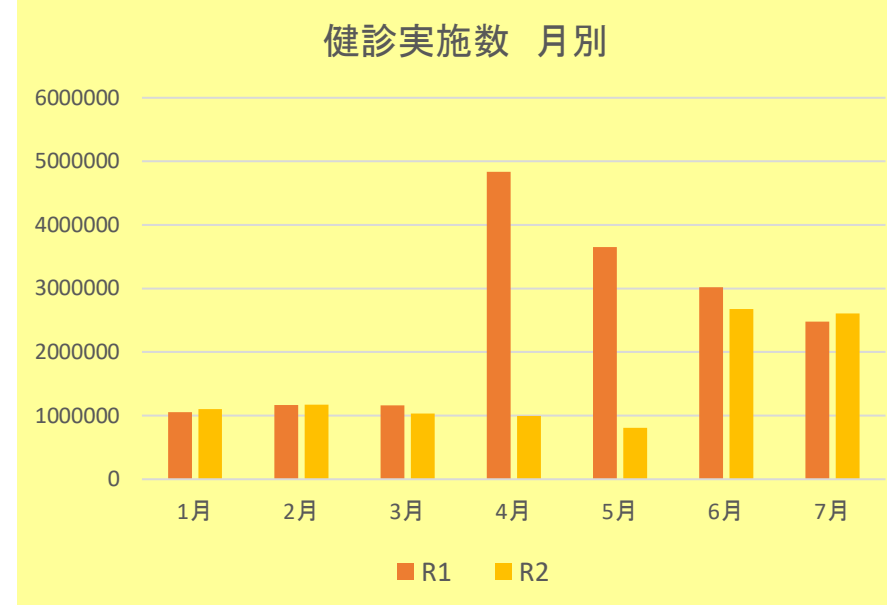
近年では、結核患者に占める高齢者の割合が3分の2に上っており、その影響もあつ、kikooikjて合併症と同時に加療する必要があるなど患者の背景が複雑化しています。令和元年の新規登録結核患者数は、80歳以上が全体の約40%を占めており最も多くなっています。患者数の増加が続いていた90歳以上でも全体の占める割合は13.6%と増加傾向は続いています。



高齢者に多い結核
年に1回は胸部レントゲン検査を！

3. 結核と新型コロナウイルス感染症

○令和2年度の健診実施について、令和元年度との比較です。

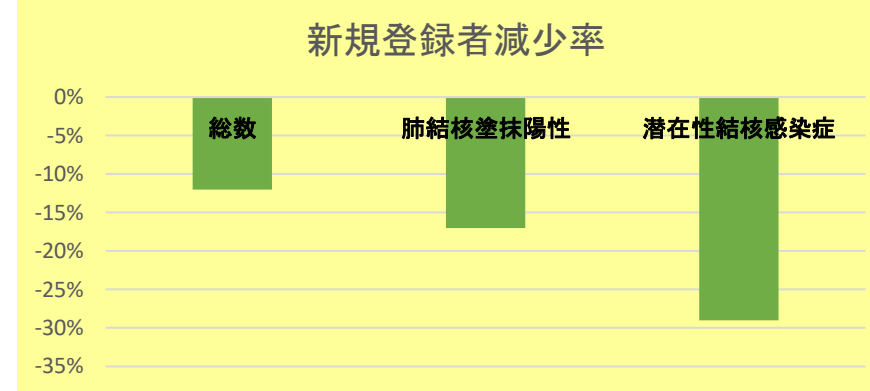


令和2年度は令和元年度に比べ、健診受診者が少なくなっています。理由は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う3密の回避のため、健診そのものが中止になったこと、健診を不要不急だと判断し、受検を控えた住民が多かったためと言われています。健診は体の状態を知るために必要な機会です。社会的距離の保持や手洗い・手指の消毒、マスク着用等、適切な予防をしたうえで健診を受け、胸部レントゲン検査も実施しましょう。

年に1回は健診を、有症状時は受診を！

(日本総合健診医学会、全国労働衛生団体連合会「新型コロナ感染拡大による健診受診者動向と健診機関への影響の実態調査結果」より)

○新型コロナウイルス感染症が結核に及ぼす影響について、登録者数の比較です。

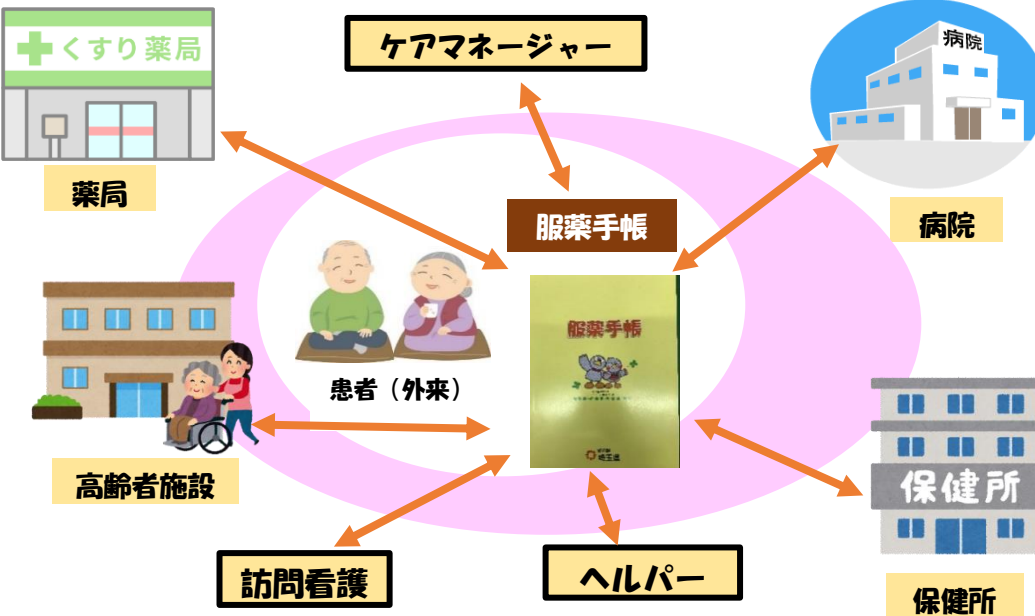


左のグラフは2019年と、2020年の1～4月の新規登録結核患者数を比較したものです。近年結核患者は減少傾向にあります。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う健診の減少等の影響で、2020年は例年より患者の発見が減少しています。このように、新型コロナウイルス感染症の流行は結核にも影響を及ぼしているということがわかります。2週間以上咳症状が続く場合には、早めに受診しましょう。

(公益財団法人結核予防会「複十字No.393」より)

4. DOTS (ドッツ) について

治療を確実にするために、医療従事者が確実な服薬を支援するDOTS (ドッツ・直接服薬確認療法) の推進が強化されています。



地域DOTSについて
DOTSの実施等に当たり、保健所では地域の医療機関・薬局等との連携協力の強化・普及を図っています。服薬確認を軸とした患者支援を地域全体で積極的に推進することにより、結核患者の治療完了を目指しています。関係機関と服薬手帳(埼玉県版)を用いて情報共有を行い、結核患者の生活環境に応じて、チームによる服薬支援を実施します。